

平成29年度なし生育診断予測事業速報 第4報

平成29年6月20日

経営技術課

1 気象経過

4月上旬は平年並みの気温で推移したが、中旬になると平年より気温が高く経過した。下旬は開花期となったが、日射量はあったものの気温は低かった。5月以降は、晴天日が続き気温が高く経過し、日照時間も平年を大きく上回ったが、降水量は全体的に平年に比べ少ない傾向だった。

6月に入り、気温は平年並みだが、日照時間は多く降水量は少ない。

2 開花期

本年のなしの開花は、幸水では県南地区において開花始めが4/16と平年に比べ2日程度遅くなった。県央及び県北でも同様の傾向となり、県全体では平年に比べ1日遅い開花始めとなった。開花盛りでは、気温が高く推移したことから平年並の4/23となった。

豊水は、幸水と同様に県南地区で4/15に開花始めとなり、県全体では4/19で平年に比べ2日遅かった。開花盛りも県全体で4/21で平年に比べ1日遅かった。

3 満開後40日までの果実肥大状況

(1) 幸水の肥大は、満開後30日の果実横経で県平均が22.6mm、平年比102%で、平年並、果実縦経も同様だった。満開後40日の果実横経は、県平均28.3mm、平年比100%であり、縦経は、県平均が25.0mmと平年比100%だった。地区別では、平年比93%～106%と差が大きくなっている(第1表、第3表)。

(2) 豊水の果実肥大は、満開後40日の果実横経で県平均28.7mm、平年比105%で良好だった。果実縦経は、県平均で26.9mm、平年比103%で平年よりやや良かった。地区別では、幸水と同様に平年比93%～116%と差が大きくなっている(第2表、第4表)。

4 果実肥大予測

(1) 幸水の収穫時における果実肥大予測は、県全体の果実横経で91.1mm、平年比97%と平年をやや下回り、果重では392g、平年比96%と平年を下回る予測である。これは、5月の高温により収穫期が前進化し、収穫までの日数が短縮するためである。

収穫予測は、収穫始めが佐野市で8月9日(平年比-2日)、県平均で8月16日(平年比-3日)であり、収穫盛りが佐野市で8月18日(平年比-2日)、県平均で8月24日(平年比-3日)であり、平年より早まることが予測される(第1表)。

(2) 豊水の収穫時における果実肥大予測(農業試験場)は、果実横径が平年比 95 %の予測となっている。また、収穫期予測は、収穫始めが県平均で9月6日(平年比-3日)、盛りが9月16日(平年比-2日)である(第2表)。

第1表 幸水の果実横径と収穫予測(mm、%)

(農業試験場)

	満開後30日		満開後40日		収穫予測			
	本年	平年	本年	平年	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
大田原市	24.6	23.7	29.8	30.2	96.2	440	8月20日	8月28日
	+0.9	103.9	-0.4	98.7	98	97	0	-1
高根沢町	23.1	21.3	28.8	27.2	94.9	392	8月16日	8月23日
	+1.8	108.2	+1.7	106.1	103	101	-3	-3
那須烏山市	19.6	21.0	24.9	26.8	81.4	311	8月19日	8月26日
	-1.4	93.1	-1.9	93.1	91	89	-1	-2
宇都宮市	22.7	22.1	29.0	28.7	92.8	397	8月15日	8月22日
	+0.6	102.6	+0.3	101.1	98	96	-3	-3
農業試験場	23.8	22.3	29.3	28.7	90.1	388	8月20日	8月30日
	+1.5	106.9	+0.6	102.1	93	88	-2	-2
芳賀町	23.6	21.5	28.5	27.3	93.0	390	8月17日	8月25日
	+2.1	109.8	+1.2	104.4	101	98	-3	-3
鹿沼市	21.6	21.6	27.5	28.1	88.6	378	8月16日	8月25日
	+0.0	100.1	-0.6	97.8	95	94	-3	-3
栃木市	22.3	22.1	28.8	28.7	93.1	419	8月11日	8月19日
	+0.2	100.7	+0.1	100.2	97	96	-3	-3
佐野市	22.1	23.5	28.0	30.1	89.7	404	8月9日	8月18日
	-1.4	93.9	-2.1	93.1	91	89	-2	-2
小山市	22.7	22.7	28.7	29.1	90.9	397	8月9日	8月16日
	+0.0	100.2	-0.4	98.8	96	95	-3	-3
平均値	22.6	22.2	28.3	28.5	91.1	392.0	8月16日	8月24日
	+0.4	102.0	-0.1	99.5	97.0	96.0	-3	-3

注 満開後30日及び40日の上段は実測値、下段は平年比。

収穫予測の上段は予測値、下段は平年比。

調査樹を変更している地点もあることから、予測値は参考データとする。

第2表 豊水の果実横径と収穫期予測(mm、%) (農業試験場)

	満開後40日		収穫期予測	
	本年	平年	収穫始	収穫盛
大田原市	29.7	29.6	9月9日	9月18日
	+0.1	100.5	-2	-2
高根沢町	26.6	25.9	9月7日	9月17日
	+0.7	102.6	-2	-2
那須烏山市	24.7	25.4	9月7日	9月17日
	-0.7	97.2	-2	-2
宇都宮市	31.1	27.7	9月7日	9月16日
	+3.5	112.5	-2	-1
農業試験場	29.5	29.1	9月6日	9月20日
	+0.4	101.4	-3	-1
芳賀町	26.0	24.6	9月7日	9月14日
	+1.4	105.9	-2	-2
鹿沼市	24.4	26.3	9月8日	9月18日
	-1.9	92.7	-2	-2
栃木市	31.1	28.3	9月1日	9月12日
	+2.8	109.8	-3	-2
佐野市	29.6	27.7	8月30日	9月9日
	+1.9	106.8	-2	-2
小山市	33.9	29.3	9月1日	9月11日
	+4.7	115.9	-2	-2
平均値	28.7	27.4	9月6日	9月16日
	+1.3	104.5	-3	-2

第3表 幸水の果実縦径(mm)

	満開後30日		満開後40日	
	本年	平年	本年	平年
大田原市	21.1	20.9	25.3	26.1
高根沢町	21.0	19.5	25.5	24.1
那須烏山市	18.8	19.0	22.7	23.9
宇都宮市	20.7	20.3	26.5	25.3
農業試験場	20.4	19.9	25.0	25.5
芳賀町	21.0	19.5	24.9	24.2
鹿沼市	19.6	19.4	24.3	24.8
栃木市	19.8	19.6	25.5	24.9
佐野市	20.1	20.8	25.0	26.0
小山市	21.2	20.2	25.7	25.3
平均値	20.4	19.9	25.0	25.0

第4表 豊水の縦径(mm)

	満開後40日	
	本年	平年
大田原市	26.4	28.0
高根沢町	24.4	25.0
那須烏山市	23.1	24.1
宇都宮市	29.5	26.1
農業試験場	27.9	27.1
芳賀町	24.5	23.5
鹿沼市	22.9	25.1
栃木市	29.7	26.8
佐野市	28.3	26.2
小山市	32.3	27.6
平均値	26.9	26.0

5 今後の栽培管理

(1) 着果管理（仕上げ摘果）

仕上げ摘果は、果実の形状・大きさ等を確認し、目標着果数の1～2割増しの着果数とする。

着果管理は、面積当たりの着果数が基本となるが、着果数にかかわらず果実の素質（結果枝の質や受粉状況）が悪い不良果は肥大しないため摘果する。全体的な着果数が不足する場合は、肥大が期待できる果そう（結果枝）に優先的に着果させる。

(2) 新梢管理

品質の高い果実を安定的に生産するためには、良質なえき花芽確保による結果枝更新が重要であり、えき花芽の着生を促進するためには、7月上旬頃の予備枝誘引や予備枝へのスコアリングが有効である。誘引処理は、えき花芽着生には有効であるが、棚面を混雑させたり、下側となる花芽への黒星病感染を高める等の弊害があるため、ほ場条件や樹の状態にあわせて管理を行う。

主枝・亜主枝の不定芽から発生した新梢を過度にせん除すると樹勢を弱めるため、最低限とする。特に樹勢の弱った樹は、除芽や新梢のせん除は実施せず、樹勢の回復を図る。

(3) 病虫害防除

病虫害は、樹勢が低下することによって発生が助長されるため、農薬に頼るだけでなく健全な樹づくりを心がける。

黒星病の発生は、芽基部病斑は少なかったが、葉柄及び果実での発病が確認されており、発生が多いほ場も見られている。梅雨入り後も降水量は少ないが、降雨後、曇天が続くなど、本病菌の感染に適している状態もあることから、計画的な防除を行う。また、病斑が確認された葉や果実等は、速やかに取り除き、ほ場外で適正に処分する。

長期間降雨が続く場合は、少雨時に薬剤散布を行い、長期間無防除にならないようにする。

豊水以降の品種では、輪紋病対策も重要であるが、多雨により発生が多くなるため雨量が多い場合は特に注意する。

なお、治療効果が高いQoI剤やDMI剤は、スピードスプレーヤーの速度を落とし薬液が葉などに十分かかるよう散布する。

カメムシ類の発生は、平年並み～やや少なめである。多目的防災網の網目が大きい場合（9mm目のラッセル網等）は、ほ場外から進入するので、カメムシ類が好む杉類・核果類（さくらを含む）・ゆず・桐等が周辺にある場合は特に注意する。

薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守し、空き容器等は適正処理を励行する。

(3) 果肉生理障害対策について

5月の気温が、平年に比べ高温に経過したことから、果肉生理障害の発生が平年より多くなることが予測される。

その軽減対策として、薬剤防除と同時に7月下旬までカルシウム剤を散布することが有効である。また、降雨が続く場合は、排水のため明きよを設置し、根の活動低下を防止する。